

食品安全関係情報(10月20日～11月2日 収集分)について

「食品安全関係情報」として食品安全委員会が収集したハザード毎の地域別情報件数の概要

		国際機関	北米		欧州		大洋州	アジア		中南米等	その他	合計
		WHO・FAO等	米国	カナダ	EU、EFSA	各国	FSANZ等	中国	各国	各国	報道、論文等も含む	
化学物質	化学物質・汚染物質	0	0	1	3	3	0	3	1	0	7	18
	食品添加物	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	農薬	0	5	0	6	1	0	0	0	0	1	13
	動物用医薬品	0	0	0	1	0	0	1	2	0	1	5
	器具・容器包装	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	その他	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	4
微生物・プリオン・自然毒	細菌	0	3	1	0	3	1	0	0	0	4	12
	ウイルス	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	5
	原虫・寄生虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	プリオン	0	0	0	1	3	0	0	0	0	2	6
	植物性自然毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	カビ毒(マイコトキシン)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	動物性自然毒	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
その他	2	0	0	5	1	0	0	0	0	0	8	
新食品等	新食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	GMO	0	0	0	4	2	0	0	0	0	5	11
	健康食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	クローン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射線照射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ナノテクノロジー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
肥料・飼料等	肥料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	飼料	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	表示	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	放射性物質	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	4
	その他	0	0	5	5	6	2	4	2	0	3	27
海外の食中毒	細菌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
海外のリコール	化学物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	微生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異物混入等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	表示違反	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	8	7	31	29	5	10	6	2	28	128	

※収集期間については、主たる期間をいう。

食品安全関係情報(10月5日～10月19日収集分120件)のうち、主なものの紹介

(詳細及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fsciis/>)をご覧ください)

【化学物質】

・スペインのカタルーニャ州食品安全機関(AGSA)、カタルーニャ州におけるトータルダイエツトスタディ 2008 年報告書に関して、ダイオキシン類、フラン類、ポリ塩化ビフェニル類の状況を公表

【微生物・プリオン・自然毒】

・米国疾病管理予防センター(CDC)、ピーナツツバターが原因とみられる *Salmonella Bredeney* による集団感染情報を更新

・欧州食品安全機関(EFSA)、食料生産動物及び食品におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌の薬剤耐性に関する統一のモニタリング及び報告方法の技術仕様書を公表

・オランダ国立公衆衛生環境研究所(RIVM)、オランダにおける家きんのカンピロバクター契約検査のモニタリングデータに関する報告書を発表

・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、多数の児童生徒での急性食中毒が終息、原因特定した旨を公表

・欧州食品安全機関(EFSA)、科学報告書「健康と畜牛における年間 BSE 統計検査体制が承認された場合の最小検体規模に関する科学技術的支援」を公表

【新食品等】

・欧州食品安全機関(EFSA)、GM トウモロコシ NK603 とグリホサート含有農薬に関する研究論文の審査結果を発表

・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)、フランスのカーン大学の遺伝子組換え NK603 トウモロコシに関する研究論文にコメント

・オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関は(FSANZ)、「ラウンドアップ除草剤及びラウンドアップ耐性遺伝子組換えトウモロコシの長期毒性に関する Seralini 氏の論文への対応」について公表

・欧州食品安全機関(EFSA)、サプリメントの成分としての合成ゼアキサンチンの安全性に関する声明を公表

【その他】

・欧州食品安全機関(EFSA)、創立 10 周年を記念した EFSA ジャーナル特別号を公表

・オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)、ヨウ素強化に関するファクトシートを公表

・オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関、食品中のヨウ素に関するファクトシートを公表

食品安全委員会が収集したハザードに関する主な情報

○遺伝子組換え食品

<p>9月に発表された遺伝子組換えトウモロコシNK603の毒性に関する研究報告に対するリスク評価機関の見解</p>
<p>公表日：2012/10/24 情報源：フランス農業・水産省</p>
<p>http://agriculture.gouv.fr/Mais-OGM-NK630-etude-publiee-en</p>
<p>フランス農業・水産省は10月22日、生態・持続的開発及びエネルギー省、厚生省並びに社会経済消費省との共同プレスリリースにおいて、9月に発表された遺伝子組換え(GM)トウモロコシNK603の毒性に関する研究報告は、先に実施された評価結果の見直しを必要とするような内容ではなかったと発表した。</p> <p>フランス政府は、フランス食品環境労働衛生安全庁(ANSES)及びフランスバイオテクノロジー高等評議会(HCB)に対し、GMトウモロコシNK603及び除草剤ラウンドアップに関するフランス・カーン大学のSéralini教授の研究報告の妥当性及びこの研究報告の意義について評価を要請した。</p> <p>ANSES及びHCBは、当該研究報告の内容が、既定の評価方法に基づき実施された当該製品の評価結果の見直しにつながるようなものではないと結論付けた。したがって、GMトウモロコシNK603及び除草剤ラウンドアップの認可の見直しは不必要ということになる。</p> <p>ANSESは、これまであまり研究されていなかった課題、すなわち遺伝子組換え作物(GMO)と農薬を組み合わせた長期毒性試験を取り扱ったSéralini教授の研究の独創性については留意する見解を示し、GMOと農薬を組み合わせた長期毒性影響に関する研究・調査を行うことを提言した。フランス政府は、フランス及び欧州連合(EU)の課題として、このANSESの提言を取り上げることとした。</p>
<p>○関連情報 当該研究報告に対する見解が各リスク評価機関から公表されている。</p>
<p>・食品安全委員会</p> <p>人の健康に悪影響を及ぼすかを判断する基本的な試験デザインを欠いており、結論を導くには不十分であるなどの理由から、安全性を再評価する必要性を示唆する知見とはなり得ないとの見解を11月12日に発表した。なお、結論を導くには不十分である理由は、主に次の2点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 長期飼育で下垂体及び乳腺腫瘍が発生しやすい系統のラット(Sprague - Dawley系)を用いて2年間(ほぼ一生)の実験を行ったため、遺伝子組換えトウモロコシでない餌を与えたラットでもがん発生及び死亡が認められている。また、各群のラットが10匹しかいないため、途中でがんなどの病気になったり、死んでしまったりした原因がトウモロコシNK603を含む餌によるものかどうかわからなくなっている。 ② 実験では11%、22%、33%の割合でトウモロコシNK603を含む餌をラットに与えているが(3群)、遺伝子組換えでないトウモロコシを与えたラットは1群(33%)しかいない。そのため、それぞれ同じ割合のトウモロコシを与えた群同士を比べることができない。 <p>http://www.fsc.go.jp/fscis/attachedFile/download?retrievalId=kai20121112sfc&fileId=540</p>
<p>・欧州食品安全機関(EFSA)</p> <p>リスク評価として有効とみなすには科学的に不十分であるとの初期審査の結論を10月4日に発表</p> <p>http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/121004.htm</p>
<p>・ドイツ連邦リスク評価研究所(BfR)</p> <p>再評価の理由付けとはならず、認可更新にも影響しないとする意見書を10月1日に発表</p> <p>http://www.bfr.bund.de/en/press-information/2012/29/a_study_of_the_university_of_caen_neither_constitutes_a_reason_for_a_re_evaluation_of_genetically_modified_nk603_maize_nor_does_it_affect_the_renewal_of_the_glyphosate_approval-131739.html</p>
<p>・オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関(FSANZ)</p> <p>方法論及び解釈に多くの弱点があり、結論の妥当性には限界があるとの予備的評価の結果を10月12日に発表</p> <p>http://www.foodstandards.gov.au/consumerinformation/gmfoods/gmfactsheets/responsetoseralinipap5676.cfm</p>
<p>・カナダ保健省、カナダ食品検査庁</p> <p>試験結果の正当性を判断するのは困難であり、現行認可の見直しには及ばないとの見解を10月25日に発表</p> <p>http://www.hc-sc.gc.ca/fr-an/gmf-agm/seralini-eng.php</p>

※詳細情報及び他の情報については、食品安全総合情報システム(<http://www.fsc.go.jp/fscis/>)をご覧ください。